

青色回転灯防犯パトロール車による日常防犯活動



【大宝学区】

■世帯数：3,815 世帯

■人 口：8,114 人

■面 積：0.899 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・「自分たちのまちは自分たちで守ろう」を合言葉に犯罪、事故被害の未然防止を目的に青色回転灯を点けたパトロール車で学区内の危険箇所や不審人物・不審者の点検、地域住民への声かけ、防犯指導などを行う。
- ・パトロール車は乗る人を問わず、より多くの地域住民に運転・パトロールしてもらうことで安全への関心を高め、「連帯感」を醸成する。
- ・平成 23 年度の運行回数は 320 回（月平均 27 回）、18 団体が安定的に参加し、パトロール運行距離は延べ 2,800km。

【住民への PR 方法】

学区広報誌への掲載、団体・町内会での口こみ勧誘

【アピールポイント】

パトロール時に拡声器で放送する文章を学区発案でテープ録音して作った。また、導入後間もなく大宝小学校の朝礼で説明会を開催できた。

危険箇所の発見、点検の機会が増えたほか、団体間の連絡の機会にもなる。大宝小学校 PTA の参加により世代間の対話ができるなど、パトロール車の運行の中で、忘れかけていた人情が生で感じられるようになった。

2 きっかけ、背景

全国的に犯罪件数が増加傾向にある中、常駐交番が減少し、地域の防犯拠点が少なくなっていた。また、地域・ご近所への無関心から自主防犯意識も薄れていた。平成 17 年度に入り、熱田区防犯協会の誘いを受けて学区で検討し、様々な問題はあったが、自主防犯システム構築のチャンスと捉え青色回転灯防犯パトロール車を導入し、パトロールを実施することとした。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
民生委員児童委員、保健委員、PTA、
女性会、老人クラブ、更生保護女性
会、各種地域団体長、小学校教頭

計約 24 人

(2) 他団体との協力

保健委員会、民生委員児童委員会、
老人クラブ、女性会、PTA、更生保
護女性会、少年補導委員、ボランテ
ィア団体

(3) 運営協力

パトロールの担当者を長期にわたり
固定しない。運行責任の単位を個
人ではなく町内会・各種団体等のチ
ームとし、安心して参加できる工夫
をしている。

4 実施のスケジュール

H17 年 四日市市・岡崎市の事例を受けて熱
3 月～5 月 田区防犯協会より青パト参加の提案

6 月、8 月 6 月までに参加表明、8 月に実施者
講習会開催（23 人参加）

7 月～ 「学区自主防犯パトカー取扱規定」
H18 年 1 月 の作成「学区連協の規約」を検討し
一部改訂、車両登録

1 月 青色回転灯パトロール車申請・関係
手続

2 月 熱田区 4 学区一斉出発式（熱田文化小
劇場）

1 月～3 月 分担計画作成、12 町内を 4 班に分け
て鍵を共有。3 月に月間 13 回運行
でスタート

7 月、8 月 7 月実施者追加講習会（44 人参加）
8 月 15 団体での実施計画が完成

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 犯罪の減少に寄与しているほか、住民による「自主防犯」の実施により子ども
の防犯意識向上に役立っている。
- ・ 柔軟な活動体制の構築により、青パト運行参加への抵抗感が減った。

(2) 苦労した点

- ・ 参加者の確保に苦慮したが、各種団体毎の活動項目に掲げてもらい実績報告
にも役立てると説得したほか、パトロール実行中に前向きな話題をすることで
その後の参加に協力的になる。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 活動の継続と資金の確保が課題。学区連絡協議会の年間事業運営費の中で占
める割合の高い項目となっている。
- ・ マンネリ化の排除とそのための工夫が必要と考えている。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・ 月当たりの曜日、回数、チーム毎のクルー人数、担当者数を固定しないこと
が重要。（ただし月次計画書作成には配慮を要する）。
- ・ 車両管理・駐車場・集合場所などのルールをしっかりと決めておくことが重
要。
- ・ 町内会、各種団体ごとに曜日や回数などの希望を聞き、調整することが重要。